

# 定例活動／10月22日(土) 「第7回どんぐり祭り」

大館 学

「♪テントもない、ガスコンロも鍋もない、テーブル・椅子も何にもない。♪あら、こんな村いやだー。」となるか？5月の小屋火災で道具の大半を失った中で迎えるどんぐり祭り。雨が降ったらどうしよう。人が集まらなかったらどうしよう。不安いっぱいでしたが、心配することなかったよ。

例年通り名古屋市との共催ということで、テーブル・椅子は天白土木事務所から応援してもらい(子供には算数セットの記念品付き)、トン汁用のコンロと鍋はレンタルで用意して、あとはお客様。天候にも恵まれて、今年は広報なごやに加え、地域のミニコミ誌「ショッパー」でのカラー写真付の広報のおかげで10時近くになると、会場の集いの広場に、来るわ、来るわ。総勢約250名にのぼる大盛況。



▶毎回子どもたちに大人気の木登り体験

小さな子供たちを連れた家族がまず目指したのは、ショッパーで紹介された、ツリーハガーズの木登り体験。たちまち予約で一杯になり、外れた子供や時間待ちの親子連れが安部さん率いる虫捕り体験や竹切り体験(元祖柴刈り大会)に向かうという流れが自然にでき、スムーズに進行しました。



▲元祖柴刈り大会で竹切りの説明を聞く大勢の親子たち

竹切り体験は、山根口近くの竹林で10組程度の親子連れを対象に、まず真弓さんがノコギリの扱いや里山で竹を切る意味をわかりやすく説明し、数グループに分かれ作業開始。今回は切り倒した竹をきれいに整理して片付けるところまで自分たちでやるということで、小さな子供には大変な作業でしたが、もっとやりたいとの希望が出て、予定を大きく上回る本数を片付けることができました。

昼が近づき集いの広場に戻ると、そこは人、人、人の賑わい。トン汁は予



定した100杯を大きく越えて振る舞い、お昼タイムになりました。その後、恒例の蛭川さんのオカリナ演奏を楽しみ、午後からの行事も大賑わい。

竹クラフトコーナーで子供たちにせがまれて竹トンボや虫作りに追われた森さんは昼ごはんを食べる時間が取れなかったと笑ってほやくほど。例年この竹クラフトは指導するくらぶ員が足りず、十分に楽しんでもらえたのが気になります。



▲森さんからぶ員指導のもと竹クラフトを楽しむ子どもたち

このほかにも、八事の蝶々や竹馬体験、丸太切り大会とセットになったくらぶオリジナルの焼印押しなど楽しいイベントが盛りだくさんの一日でした。

## シリーズ『森の住人たち』⑬ ～メジロ(目白)～ 甘党

メジロ科 全長 11.5～12cm

環境 山地の林、樹林の多い公園・住宅地など



前方に、緑色っばいかたまりが見えた。車が出払ってがらんとした駐車場に、そこだけが異空間のよう……。近づくと、そのかたまりはメジロだった。反射的に拾いあげる。すでに体は冷たい。全く傷はない。何か障害物に強くあたったようだ。小さく、ほっそりとした体つきである。

くちばしの下部分が、想いのほか鮮やかな黄色であることに驚く。日頃、「ほらメジロ、メジロがいるよ」などといっているものの、気づかないことも多い。見ているようで、見えないことを思い知る。

くちばしが細いのは、花の蜜を吸いやすいからだ。メジロ(目白)の名の由来通り、目の周囲には白いリングがある。さらに注意して、くちばしに側のリングの一部が切れているのを確認する。

メジロは、ウメの花の蜜が好きだ。“甘党”なのである。ウメの枝に止まっている鳥を見つけると、「梅に鶯」の言葉をつい思い出す。しかし、大抵はウグイスではなく、メジロである。

メジロの聞きなしは「長兵衛忠兵衛長忠兵衛」である。「チーチュールチュール・・・」と複雑で連続して鳴くさえずりが、それにあたる。地鳴きは「チー」と細い声。「キリキリキリ・・・」は警戒の鳴き声といわれる。

そろそろウメの花が咲き始める季節……。風のない朝、冬木立の森をゆっくり歩いてみよう。メジロが吸蜜するしぐさや、白や薄紅色の花から漂うふくいくとした香りに、心なごむひとときが約束されるだろう。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)